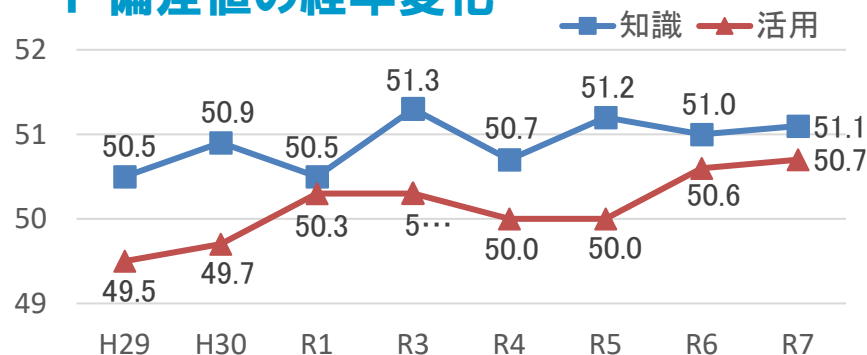


※目標値・・・学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したもの。

結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識と活用ともに偏差値50を上回っている。

2 観点別の結果

観 点	県正答率	全国正答率	目標値
知識・技能	47.8	45.0	48.5
思考・判断・表現	44.7	43.7	46.3

○全ての観点において、全国正答率を上回っている。

3 領域別の結果

領 域	県正答率	全国正答率	目標値
地理	48.5	47.2	49.3
歴史	44.4	41.5	45.7

○全ての領域において、全国正答率を上回っている。

4 解答形式別の結果

解答形式	県正答率	全国正答率	目標値
選択	47.3	46.0	48.5
短答	56.5	50.3	51.3
記述	18.0	15.6	30.0

○全ての解答形式において、全国正答率を上回っている。

つまずきが見られた問題

大問6(3) 県正答率21.0% 県無回答率25.4%

【問題の概要】

皇室と藤原氏の系図をもとに、藤原道長が権力を握った方法を、道長がついた役職の名称を使って説明する問題。

【課題】

社会的事象の意味や意義について、資料を読み取り、既習知識と関連付けて多面的・多角的に考察し、自分の考えを説明すること。

指導のポイント

★単元を通した学習過程の中で、特に下記の②・③の指導の一層の充実が求められる。

①知識の習得

生徒が考察、説明をしながら理解していく学習過程を経て、基礎的・基本的な知識を習得できるようにする。

②調べまとめる技能を身に付ける

学習指導要領P.186、187「社会的事象について調べまとめる技能」を参考に、技能を身に付けるようにする。
・系図から**目的に応じた情報を選別して**読み取る。

③読み取った情報と既習の知識を関連付けて考察し、説明する

歴史に関わる事象の意味や意義を、**変化や差異などに着目**して考察し、説明できるようにする。

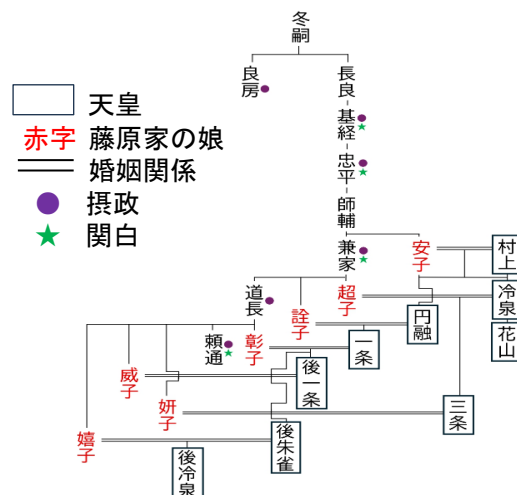
・②で読み取った情報をもとに、既習の知識と関連付けながら多面的・多角的に考察し、説明する。

★指導の具体例

【課題】藤原氏はどのようにして政治の実権を握ったのだろうか。

★調べまとめる技能を身に付ける学習活動

皇室と藤原冬嗣以降の藤原氏の系図から読み取れる道長と兼家の共通点をまとめる。



共通点

- ・娘が天皇と結婚している。
- ・娘と天皇の子が天皇になっている。
- ・摂政になっている(兼家は関白にもなっている)。

★読み取った情報と既習の知識を関連付けて考察し、説明する

系図から読み取った情報

- ・道長や兼家の娘は天皇と結婚し、生まれた子が天皇となっている。
- ・摂政などの役職に就いている。

既習の知識

- ・律令国家では、天皇による政治が展開されたこと。
- ・摂政は天皇の代わりに政治を行う職であること。



藤原氏が政治の実権を握った方法の一つとして、娘を天皇のきさきとし、生まれた子を天皇にたてすることで、自らが摂政や関白となり、天皇の代わりに政治を行ったことが考えられるよ。